

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4170300174		
法人名	有限会社 お元気ハウス		
事業所名	グループホーム お元気ハウス		
所在地	佐賀県鳥栖市宿町門戸口1399番地1		
自己評価作成日	平成23年 2月 19日	評価結果市町村受理日	平成23年5月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigojohou-saga.jp/kaigosip/Top.do">http://www.kaigojohou-saga.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人 佐賀県社会福祉士会
所在地	佐賀県佐賀市八戸溝一丁目15番3号
訪問調査日	平成23年3月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様の残りの人生が、その方らしく日々生活出来る様に、職員が一丸となって支援出来る様に努めている。御本人様の状況の変化を御理解して頂きながら、御家族の方と情報交換をみつに行き、相談しながら一緒に解決改善出来る様に努力している。「その人らしく」「人間らしく」お一人お一人が生活出来る様に支援に努めている。健康管理と心身の状況の変化を見逃さ無い様に、観察と関わりを大切にしている。又、ターミナルケアをさせて頂くケースも多く、職員の勉強会、研修会に参加し各自がレベルアップ出来る様に定期的実施している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

鳥栖市の中心部に位置する2ユニットのグループホームである。同一法人の通所介護や小規模多機能の事業所も併設され、お元気村として地域から認知されている。毎月1回独自運営で家族会が開催され、積極的に意見や要望が出されると共に、毎月”家族支援活動”として、窓ふき、草取り等の協力が得られている。近くの高校の吹奏楽部とは、ホームに演奏に来てもらったり、入居者が作った雑巾を寄贈したりとの交流が図られている。また、かかりつけ医、看護師による24時間いつでも連絡、相談できる医療体制が整い、これまでホームでの看取りも数十例行われている。最後に立ち会えることの有り難さ、大変さを、職員全体で共有し、入居者と過ごす時間を大切にされているホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印			項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印		
	東館	西館			東館	西館	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(東館)	自己評価(西館)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を玄関・休憩室など目に付く場所に掲げ、常に意識付けが出来るようにしている。又御家族や地域とのつながりを大切に出来る様な理念であり、日々のケアに繋げる様に努めている。	「利用者本位」「家族の希望」「個別支援」「地域との共生」を主にした理念を基に、ケア会議や日々の支援の中で常に念頭に置き、心がけるようにしている。	入居者の方を中心に、「その人らしく」「人間らしく」生活できるよう、管理者を含め職員全体で、理念を念頭においたケアに日々努められている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日頃から散歩や買い物に出向き、挨拶を交わして行く中で顔見知りになれるように努めている。又年間の行事の中で地域の方の参加を頂きながら触れ合える機会を設けている。	散歩や買い物など外に出る機会の中で顔なじみやお年寄りが住んでおられる事を理解して頂き、利用さんの離設時にも連絡をして頂く等以前に比べ、馴染みの関係が出来てきているように思う。	夏祭り等のホーム行事への地域からの参加、地域の花見へのホームからの参加等、日々の関わりを含め、地域との交流に努められている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入所や認知症についての相談や紹介などで立ち寄られ、アドバイスやサービスの説明を行い、必要に応じ施設の紹介を行いながらその方にあった介護支援が出来る様対応に努めている。	施設内での講演の際も近隣の方へ参加を呼びかけたり、広報を配布し認知症の方がたの姿や活動を通して理解を深められるように努めている。又キャラバンメイトとしての活動にも努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回会議を開催し、ホームの状況について報告を行い、助言や理解を頂けるようにしている。意見や助言については職員会議で報告し、全職員がサービスに繋がれ様に努力している。	運営推進会議を通して、ホームの現状を報告出来る様に定期的に開催している。会で出た内容に関しては、職員会議の中で全員が理解し、検討しながらサービス向上に努めて行ける様努力している	2ヶ月に1度開催され、ホームの行事の報告、意見の収集等が行われている。また、地域や家族へも呼びかけ、認知症の学習会を行う等、学習の場としても活用されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村とのつながりを大切にし、伝達事項や質問事項などの助言をいつでも頂けるように、出向いている。又市町村より出前講座の開催などを通して御家族との関係も含められる様に努めている。	市町村主催の勉強会への出席している。出向いた際には、現状の報告や意見交換を行い、助言や情報を頂けるように努めている。	家族会のおりに、市からの講座の開催等も行われるなど、日頃から連絡、相談が出来る関係が構築されている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	開設当初より、施錠はせず開放しており、それが職員に徹底されている。勉強会で身体拘束の理解を深め、言葉や身体拘束をしない支援の取り組みが出来る様に努めている。	施錠はせず常に開放的にしており、会議や勉強会を通し、身体拘束や言葉での拘束を行わないような体制をとれる様に取り組んでいる。拘束の必要な状況が発生した場合は御家族へ説明、理解を得た上で書面での契約を交わすようにしている。	身体拘束をしないケアの大切さについて、勉強会のおりに学習する場も設けられ、日頃から拘束をしないケアに努められている。現在玄関の施錠を含め、拘束は行われていない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	些細な言葉かけや対応において、身体的精神的な面での虐待がないように、会議の中での確認や話し合える様にしている。又、勉強会のテーマにあげ十分な理解と防止が出来るように努めている。	言葉や態度、対応を含め、職員間での虐待防止意識を高められるように、会議や勉強会を通して知識・理解を深め、お互いが注意しあえる関係づくりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価(東館)	自己評価(西館)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会や研修会に積極的に参加し学ぶ機会を設け、必要な状況の方が出た場合は検討し活用できればと考えている。	福祉サービス援助事業あんしんサポートセンターを利用している方がおられるが、他利用者さんも含め、今後御家族を含め相談等ある可能性があり、情報提供が出来る様に努めていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居希望の際は必ず、御家族や御本人さんに施設見学をして頂き、生活の場となる環境や施設の支援に対する思い、御家族・御本人さんが望む所や疑問などに対し説明し納得いける様努めている。	見学に来て頂き、目で見て確かめてもらい、感じた思いや不安や疑問に対して一つ一つ説明させて頂き、納得・理解が得られる様に努めている。契約内容についても説明を重ねて行い理解を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者さんの抱えている悩みや不安・不満を察知し言葉かけを行い、管理者や職員を含め話せる場を作っている。家族会や運営推進会議での意見交換や検討を含め、一緒に解決出来る様に努めている	生活の中で関わりながら、要望や意見を聞き逃さずケアに生かせるようカンファの中で検討解決に努めている。御家族の面会の際にも言葉かけを行い、思いを伝えて頂けるようにしている。	日常の会話や面会時のおり等、機会あるごとに本人や家族の意見・要望の把握に努められている。また、家族会が毎月1回開催され、率直な意見や要望が出されている。運営に活かせるものは随時反映されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員が意見、要望をいつでも伝えやすい環境を作り、いろんな状況や状態の中で一緒に考え対策を立てる事で、サービスの向上を図れる様に努めている。	会議の中で、意見交換を図り思いの統一を行い全職員が納得出来る様に努めている。又日頃からの職員との交流を大切にし、会話がいつでももてるように心がけている。	ホーム会議、法人全体の会議、勉強会スタッフ間の交流会のおり等、機会あるごとに意見の聴取に努められている。出された意見については全体で話し合い、運営に活かすよう努められている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員を多めに配置する事で、急な勤務変更時に連絡調整を行い、勤務体制や力量等を見極めながら負担の軽減を図ったり、頑張りを認め労いの言葉かけを行うなど、職員個々を常に把握出来る様に努めている。	勤務表作成時より、希望休を入れ込み出来る限り職員配置を多めにし、急病の際など連絡調整をおこなえるようにしている。又、個人相談にのれる様に日頃からの関係作りにも配慮し、言葉かけを行うなどの把握に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受けられる機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内で新人研修・勉強会を行うと共に、施設外の研修会や交流会にもレベル応じた内容を吟味し積極的に参加し他施設との交流を図っている。研修生も受け入れ、職員の学び向上に繋げている。	施設内外の研修会・交流会と積極的に参加出来る様に配慮し、職員個々が多くの知識と学びを得ながらサービスの向上に繋げるように努めている。研修生を受け入れ、新たな学びで向上に繋げている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会や交流会に積極的に参加し、他施設との意見交換や交流の中で得た学びを持ち帰り、サービスの質の向上に繋がれる様に努めている。	同業者同士での交互研修を行い新たな学びや振り返りを行いサービスの向上に繋がれるように努めている。又研修会や交流会の参加も積極的に行い、幅広い知識を学べるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価(東館)	自己評価(西館)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者さんの抱えている悩みや不安・不満を表情や動き・言動の中から汲み取りながら、言葉かけや関わりの中で受け止め、個々の理解を深めるように努めている。	入所時から、御本人さんへの関わりを密にとり、沢山の思いの中におられる事を理解し、本人さんの立場に立ち安心して過ごせる関係が気付ける様に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前の見学や御相談にいられた段階より、御本人さんの状況から御家族の抱えておられる問題までじっくり聞けるよう配慮し、当施設で任せて頂けるよう不安の解消に努めている。	御家族の面会時には、必ず御本人さんの心身の状況について、管理者又は職員より細かい情報を報告し、より良い支援に向け協力体制がとれる様に気がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前又は入所時に、出来る限りのご利用者さんの情報を知る為に御家族へ基本情報シートの記入や事前情報から暫定プランを作成し、支援を実施しながら利用者さんの思いの理解に努めている。	今あるご利用者さんの情報を基に、決めつけず心身の状況を見極めながら、関わりに配慮し利用者さんの理解と支援の必要性を探り、その方に合った支援が出来る様に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	挨拶から始まり、利用者さん個々への言葉かけを行い、その日その時に心情を理解し、一緒に喜んだり、笑ったり悩んだり共感しあい、人生の先輩として学び、尊敬の意を持ち接する様に努めている	本人さんの喜怒哀楽の感情を大切に一緒に共感し、同じ時間を過ごす中で生きて来られた人生の重みに敬意を持ち、多くの学びを得る事が出来る様に努力している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や介護計画の立案の際など出来る限り、御家族と職員・管理者が同じ思いの中で御本人を支えて行けるように相談しあい、良好な関係を維持出来る様に配慮に努めている。	御本人が御家族に伝えきれない思いを汲み取り、職員が変わって伝えるなど情報を共有しあい、御家族の思い意見を考慮しながら一緒に御本人さんを支えられるように働きかける様に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	時間を問わずに、来訪して頂けるように開放的にしており、面会の際は御本人さんと穏やかに過ごせる様な雰囲気を作れるように努め、再度来訪頂ける様にお願いをするなど関係維持に配慮している	いつでも、面会が出来る様に開放的な雰囲気に努め、御本人さんや来訪者が穏やかな懐かしめる温かな時間を過ごせるように努めている。	家族や知人の面会も多く、来訪者が訪問しやすい雰囲気作りにも努められている。また、通い慣れたスーパー、神社、公園、温泉等への外出、自宅への帰宅支援についても希望に応じ対応されている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者さんそれぞれの性格や心身の状況を探りながら、座席や居場所の検討を行い、一緒に生活する仲間である事を空間の中で感じてもらえる様に楽しい時間を過ごせるよう配慮している。	食事や活動など入居者全員の方が一緒に過ごせる時間を大切に、トラブルの状況や原因を把握しながら、個々の性格や状況に配慮しながら、良い人間関係が維持出来る様に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価(東館)	自己評価(西館)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院に至った時も、訪問医師・管理者と病状経過や今後の事も含め出向き、御家族や病院関係者との情報交換を行い連携出来る様に努めている。	入院後も経過を把握出来る様に御家族からの情報と医療機関との連絡を取りながら今後の経過を見据えた相談や助言が出来る様に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	御本人さんの日々の生活状況を把握し、職員間で個々の変化を把握し、情報の共有が出来る様に記録や申し送りにて伝達し、多くの情報の中でさらに検討し支援が来る様に努めている。	介護計画の立案時に、暮らしぶりや行動・言動・表情や御家族からの意見、職員個々の感じ方汲み取り方などあらゆる側面からの情報をもとに、御本人さんの思いを探れる様に努めている。	24時間シートを作成し行動を把握すると共に、アセスメントを十分にを行い、本人への理解を深め、入居者一人ひとりの思いの把握に努められている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の基本情報に合わせて、御家族や紹介ケアマネージャーからの情報が得られるよう連絡をとり、得られた情報については、介護記録と共に備え付け、日々のケアに活かせるように努めている	御家族に基本情報シートの記入を依頼し情報提供して頂いており、不明な部分についてケアマネージャーや医療機関等と連絡をとりながら御本人さんの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入所時や心身の状況変化に合わせて、24時間シートの活用や、職員個々が得た情報が共有出来る様に日々の支援のあたりながら、伝達しあい統一したケアが出来る様に努めている。	時間と共に変化する利用者さんの状況把握の為に24時間シートの活用や心情の変化や訴え行動に対し対応方法を伝達仕ながら状況・状態にあった支援に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	御本人を中心に、家族・医師・看護師・介護者など関わる者が情報を持ち寄り、それを基にケアカフェを開き、多くの意見や工夫などを出し合い、現状に沿った介護計画の作成が出来る様に努めている。	御本人さんを支える関係者全ての者が意見を出し合い、意に添えるプランの立案が出来る様に努めている。又状況変化に伴うプランの立て直しやモニタリングを行い作成出来る様に努めている。	担当を中心に情報収集し、本人、家族、主治医、職員が一堂に会しカンファレンスが開かれ、計画が作成されている。定期的な評価、見直しと共に、状態に応じた随時の見直しも行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	24時間の御本人さんの状況について、介護記録に残すと共に介護計画の実施状況についても記録や申し送りを行い、気が付けて観察把握が出来、見直しの検討が行えるように心がけている。	介護記録と合わせて、心身の状況変化に応じ、細かな変化の把握と対応については24時間シートを活用しながら、介護計画の見直し出来る様に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者さん・御家族を取り巻く状況の変化とニーズに対し、相談し理解に努め、最善の支援が出来る様にスタッフ間で意見を出しあい、その方の状況に沿った取り組みが出来る様に心がけている	その方らしさを大切に出来る様に、状況に応じた支援が提供されるように、スタッフ間での意見の統一を図りながら取り組める様に心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価(東館)	自己評価(西館)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の幼稚園への慰問や高校吹奏楽部生徒さんの慰問演奏会やボランティア踊りを鑑賞したり、介護あんしん相談員の訪問や民生員・介護保険課・包括支援センターの方の会議への参加がある	近隣の商店への買い物や幼稚園・高校生との交流慰問やボランティアの方との協力や消防署・関係機関との情報交換により地域の中で安心して生活が出来る様に努力している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	24時間かかりつけ医との連携を図り、適切な医療が受けられるよう体制をとっており、他医療機関への受診の希望や必要性がある場合は、連携をとりながら情報を共有できるように努めている。	24時間いつでも、かかりつけ医との連携連絡が取れる体制にあり、適切な医療が受けられるように支援している。又状況に応じて通院介助が必要	かかりつけ医のもと、24時間診療体制が整い、必要に応じ専門医への受診にもホームで対応されている。看護師の配置が充実し、看護師を中心に、家族、主治医、職員間で情報を共有されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が常勤しており、利用者さんの身体的変化については、直ぐに報告し見てもらえる体制であり、昼夜を問わず些細な事や分からない事などに対し相談し早期対応が行えるように努めている。	利用者さんの状態に応じて、常勤の看護師より、起こりえる変化や観察点についての助言をもらいながら、ケアに活かすことが出来ている。又24時間連絡が取れるような体制であり、情報交換を行いながら健康管理に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は利用者さんの支援状況や生活状況等の情報提供を行い、不安なく入院治療を受けられるよう努めている。又入院中の状況や経過について御家族の情報や医療機関との連携が出来る様に努めている。	医療機関との連携を図り、情報交換に努めながら、心身の負担の軽減に努められるように配慮し、安心して治療を受け、早期退院に向けて協力していけるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時、看取りについての説明を行うと共に、「いづつどうなるか分からない」状況を予測し、現時点での御家族の意向を確認し、更に重症化又は終末期を迎えるに状態になった場合、主治医・事業者側と御家族全員の意向を確認をしている。	御家族・御本人さん、介護者が悔いを残さないように、日々意向を確認しながら最後まで一緒に支え合う事が出来るように努めている。又介護計画も状態状況に合ったものにして直し、最善なケアに努めていけるように努力している。	契約時にホームの方針が説明され、本人、家族の意向が確認されている。重度化、終末期に至る段階でもその都度確認され、家族、主治医、職員が方針を共有し、最善のケアに努められている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	会議での事故報告により、予防や対応について話し合い、勉強会においても必要な知識を学ぶと共に、定期的に消防署の協力を得、救命処置の講習会を受け対応処置が出来る様に努力している。	ケアにあたる中で、身体変化に早期に気付けるよう観察力を身につけ、看護師への報告し、連携が図れるように努めている。勉強会や消防署よりの救命処置の講習により知識、技術を学んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を行い、職員全員が手順を把握し、慌てず冷静迅速な対応が出来る様に努めている。又、地域の会議の際、住民の協力を得られる様に声かけを行っている。	避難訓練を重ね、反省や改善点について話し合い、より安全で効果的な避難対応が出来る様に努力している。	避難訓練が年2回実施され、夜間を想定した避難、避難経路の確認といった事が行われている。運営推進会議を利用し、地域への協力についても呼びかけが行われているところである。	災害時の対応等についても、マニュアルを用意すると共に、地元住民や消防団等との協力体制の構築が望まれる。

自己	外部	項目	自己評価(東館)	自己評価(西館)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の人格を否定する事無く、尊敬の念を持ち言葉かけや対応に配慮出来る様に努めている。会議の中でも議題にあげ職員の意識の向上が出来る様に努めている。	常に言葉かけや対応を行う際、個々のプライドを傷つける事なく、お一人おひとりを尊重した対応が行える様、職員間でも注意し合いながら、より良い支援が出来る様に努めている。	気になる事があればその場で注意する等、入居者への対応、日々の声かけ、言葉づかいには管理者を中心に、職員全体で意識を持って取り組まれている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	御本人さんによる選択と意志決定が出来る様に配慮し、希望に添えるように支援に努めている。	判断能力の低下されている方においても、問いかけを行い表情の変化や反応を見逃さず、御本人の思いを汲み取る努力を行うように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の生活リズムやペースを乱す事無く一日一日を大切に有意義な時間が過ごせるよう、カンファレンスを通して検討しその方らしく過ごせる手助けが出来る様に努めている。	個々の生活パターンを把握し、無理強いする事なく、一日を通して意に添った過ごし方が出来る様に介護計画に入れ込むなど支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類選びや好みの服が着用出来る様に努め、月1回の理容師の方の来訪により好みの髪型の希望など優先し依頼できている。	トイレ後や食事の後の衣類の乱れや汚染に注意を払い速やかに対応出来る様に努めている。理容師さんの定期的な来訪により、顔そりや髭剃り・カットが受けられるようになっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の能力や状況に応じて食材の下ごしらえや取り分け、配膳、後片づけを行って頂きながら、出来る事の喜びと役割を持つ事が出来、食事が楽しい時間となれる様に支援している。	希望メニューを聞き出し、食事が楽しめるように配慮している。又個々の出来る力を見極めながら、食事の準備、配膳、片付けまで分担して楽しんで出来る様に支援にあたっている。	下ごしらえ、台拭き、配膳、下膳等入居者の状態に応じた活躍の場が提供されている。また、状態に応じた形態にする等個々の好みや力に応じた支援が行われている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分量をチェック表に記入し、職員全員が摂取量の把握を行いながら、必要に応じ、時間や量の配分を行えるように配慮している。又自己摂取への工夫を行いながら支援している。	個々の身体状況や状態に合わせた食事量や形態・味の変更を行いながら、摂取量の確保に努め、体調維持が出来る様に支援に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを徹底して行っており、個々に応じた磨き残しのチェックや介助、声かけを行う事で、習慣化している。訪問歯科医よりの口腔機能の維持についての資料や説明も随時受けている。	毎食後の口腔ケアを行いながら異常や本人さんからの訴えにも注意しながら、必要に応じて歯科治療を受けられるようにしており、その方にあったブラッシングの指導や予防についても説明をうけている		

自己	外部	項目	自己評価(東館)	自己評価(西館)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表の活用と個々の排泄に対する理解や行動を把握し、失禁の原因となっている状況を理解し、場所の誘導や動作の支援などの必要性をつかみながら、支援に努めている。	排泄状況を把握し、個々に必要な排泄支援に努め、出来る限りトイレでの排泄が継続出来る様に御本人さんの動きや表情などにも注意し早目に誘導が出来る様に努めている。	排泄のパターンを把握し、日中はトイレ誘導を基本とされている。排泄のリズムを整えることで、尿意が戻られた方もおられ、排泄の自立に向けた支援が行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因となる様々な要因を理解し、予防策として、水分補給や牛乳やヨーグルト、食物繊維の多い食材の摂取に努め、適度な運動を行える様に努めている。	排便状況を把握し、便秘予防に努めると共に、必要に応じ主治医より内服薬での排便コントロールをおこないつつ、快便となれる様に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	御本人さん・御家族の希望に添えるように努め、身体状況や気分によって清拭や翌日への変更など柔軟に対応出来る様に努めている。	体調や希望に合わせて入浴出来る様に努め、交流の場となれる様に気分良く入浴が楽しめるように配慮する。拒否のある方に対して無理強いせず、誘導の工夫やタイミングを見計らいながら、気分良く入浴が出来る様に支援する。	希望すれば毎日入浴することは可能であり、時間についても夕方の入浴等にも対応されている。拒否があっても誘い方を工夫したり、時間をおいたり、入浴が気持ちの良いものとなるよう配慮されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転に注意しながら、個々の睡眠状況を把握し、日中の休息時間を検討しながら体調に無理のない様に配慮している。夜間の空調や寝具調整など環境にも配慮している。	夜間不眠で覚醒されている方や保温が必要な方などに対し、温かい飲み物や体を保温するなどの対応や話を聞き不安の軽減をはかるなどのケアを行いながら安眠出来る様に支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の内服に関しての一覧表の掲示により、いつでも内容確認が出来る様にしている。臨時で処方された薬については、看護師より説明を受け申し送りにて把握出来る様にしている。	内服薬の一覧表にて、内容確認が出来る。個々の持つ疾患と合わせて説明を受け必要性を理解し、内服チェック表にて服薬が確実に出来る様に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の情報をもとに、残された力を発揮、維持出来る様に家事・作業へ参加して頂き、役割を持ち意欲向上に繋がる様に支援し、レク活動などにより気分転換や楽しめるものとなるように努めている。	その方に合った家事・作業など様々な事ながらに対し参加して頂きながら、楽しみや力を発揮できる場を作れるように努めている。散歩や外出など一緒に付き添い季節を感じる事が出来る様に努める。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	戸外に出られる際は、様子をみながら一緒に付き添い周辺を散歩しているが、買い物や季節によって花見に出たり、外でおやつを食べたり、御家族の協力にて外出の機会を作るなど支援している。	気候や体調をみながら、希望に添って外出したり、食材やその他の買い物にも車で出かけた時、外気浴や外で一緒におやつを食べるなど工夫し、外に出る機会を作れる様に努めている。	花見などの行事のほか、買い物、散歩、家族との外食等の機会が設けられている。また、玄関前の広場でお茶を楽しんだり、花の水やりや草取り等、戸外で過ごす時間も大切にされている。	



自己	外部	項目	自己評価(東館)	自己評価(西館)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が困難な方が多いが、買い物に出かける事で支払いしている姿を見て頂いたり、お金を準備し支払ってもらうなどに努めている。	おこづかいとして、預かっている方もおられ、買い物に行きたいや孫にお小遣いをやられるなどの際は、本人さんにお金を渡し自ら相手に渡せるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には、電話をかけて話が出る様に配慮している。手紙が来た際も手渡し、読みづらい時は代わりに読んであげたり、差出人方へ電話をかけ御本人が御礼を伝えるなどの支援を行っている。	電話をかけても、思いを伝えられない方に対して傍で助言したり、変わって話をしたりと対応に努めている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	台所からの煮物のにおいや調理している姿が見えたり、混乱気味の際に声をかけてくれる職員が見える範囲にいるなど、安心して居られる様に努めている。季節や行事あわせた飾りつけを行い季節を感じられるように努めている。	利用者さんの状況や動きに合わせて、ソファや畳の配置を考慮しながら、ゆっくり過ごせるように努めている。又気候や天気分かるようにカーテンを開け外の風景が見えるようにしたりと些細な事への配慮に努めている。	生活音、光の量、ソファの位置など細かい所まで配慮されている。また季節ごとの飾り付け、窓からの見える庭の花々など、季節を感じられるよう工夫されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人がけのソファや三人がけのソファ、畳など、自ら選んで居場所を決めたり、なかの良い者同士と一緒に過ごしたりされているが、状況によってトラブルが発生する事もあり、注意を払っている	性格や状況によって、居場所が変わるが、仲良く並んでTVを観たり作業を一緒にしたりと、自ら居場所を選択出来る様に支援したり、自室にもどられる際は見守りながら支援に努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個々の以前の生活環境に近くなるように御家族が使い慣れたものを設置したり、家族の写真などの掲示をおこなうなどの協力で居心地の良い場所となっている。	タンスや小物、掲示物など本人さんの好む物で囲まれるように御家族に協力して頂いたり、信仰している神様を設置されているなど、安心出来るように努めている。	生活環境が変わらないよう、ベッドの向きを考慮したり、仏壇や使い慣れた家具、写真するなど、一人ひとりの大事にされている物が持ち込まれ、安心して居心地良く過ごせるよう工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりの高さや設置場所に配慮し、安全に移動の手段となれるようにしており、浴室内で滑り止めマット、移動通路の確保に努めている。	家庭的雰囲気や崩さないように配置を考慮し、安全に移動できる様に通路の確保や手すり、必要ヶ所に滑り止めを使用するように努めている。		